

いう発想自体に根本的な問題があります。ベルリン・フンボルト大学の創設者であり、言語学者でもあったヴィルヘルム・フォン・フンボルトは、「言語を本当の意味で教えるということは出来ないことであり、出来ることは、言語がそれ独自の方法で心の内で自発的に発展できるような条件を与えることだけである。〈中略〉各個人にとって学習とは大部分が再生・再創造の問題、つまり心の内にある生得的なものを引き出すという問題である」と1836年に述べています。これはアメリカの言語学者ノーム・チョムスキーが提唱する「言語生得説」の基礎となる考え方であり、あらゆる自然言語の普遍性を裏付けるものです。この仮説の脳科学的根拠については、酒井教授による近著『チョムスキーと言語脳科学』（集英社インターナショナル新書）を参照してください。

これからも、東京大学の酒井研究室では人間の脳における言語や創造性のメカニズムの解明を追究し、言語交流研究所は「ことばと人間」についての実践的な活動を通して、世界の人たちとの豊かな交流の実現に貢献していきます。

5. 発表雑誌

雑誌名：Scientific Reports (Nature Portfolio Journal)

論文タイトル：“Enhanced activations in syntax-related regions for multilinguals while acquiring a new language”
(新たな言語の習得における多言語話者の文法関連領域での活発な活動)

著者：Keita Umejima, Suzanne Flynn, Kuniyoshi L. Sakai

DOI番号：10.1038/s41598-021-86710-4

出版後の論文 URL：www.nature.com/articles/s41598-021-86710-4

発表論文詳細は URL または QR コードより
東京大学プレスリリースをご覧ください



<https://bit.ly/31DUsl4>



スザンヌ・フリン教授

マサチューセッツ工科大学 多言語獲得研究 言語学
記者会見コメント (抜粋) より

今回の共同研究には、酒井邦嘉教授 (クニ)、梅島奎立さん (ケイタ)、エリザベス、そして私でチーム組んで取り組みました。なるべく完璧に近づけるよう、まさにヒッポファミリークラブのやり方で、皆が長い時間を共有しました。英語では「血と汗と涙」という表現がありますが、まさにたくさんの血と汗と涙を流しながら、実験を進め、データを解析し、論文の発表に向けて何度も推敲を重ねました。根気のいる作業でしたが、私たちの仮説「言語獲得の累積増進モデル」が正しいことを示す、考えられる最高の結果をもたらしました。

Before proceeding further, I would like to say a few words about being a member of the joint research project team that consisted of Kuni, Keita, Elizabeth and myself. In the true Lex-Hippo way, everyone worked together for a long time to get everything as close to perfection as possible. “Much blood, sweat, and tears”, as they say in English, went into the development, running of the experiment, analyses of the data and the final rewrites of the results for publication. It was an arduous process but one that guaranteed the best possible results for confirmation of our initial hypothesis about the CEM.

また、今回の結果は、ヒッポファミリークラブについて、非常に基本的な事柄を証明しました。それはヒッポファミリークラブの多言語活動は、この世界において、唯一無二の、特別な活動だ、ということです。私が常に申し上げているように、この活動も、メンバーの皆さんも、「Extraordinary—並外れて素晴らしい」のです。今回の共同研究に関わられたこと、そして、ヒッポファミリークラブの素晴らしいみなさんの仲間になれたことを大変誇りに思います。

Results also confirm the very basic fact that we all know about Lex-Hippo. It is a unique and special program in all the world. There is simply nothing else like it worldwide. It is extraordinary, as I always say, and all its members are as well. I am so proud of being a part not only of this project but of Lex-Hippo as a program with all its exceptional members.

今回の研究成果は、ヒッポファミリークラブにとってだけでなく、科学の世界にとっても新しい発見です。このことは、非常に深い意味を持ちます。これまでになかった、まったく新しい発見であり、今後の研究にとっての新しい基準を設定したことになります。

With the results of this project, we have made a new discovery not only for Lex-Hippo but also for the world of science. It is truly a profoundly deep set of results. There is nothing in science quite like it yet. The results set a new bar for future research.

改めて、私たちが皆信じてきたことを科学的に実証する機会をもてたことを、誇りに思い、感謝します。

Again, I am so proud of it all and I thank you for giving me this opportunity to scientifically prove something we all believed to be true. Now we know why neurally.
Arigato Gozaimasu, Muchas Gracias, Thank you.



「多言語の脳科学」 東京大学・MIT・(一財) 言語交流研究所 共同研究基金 News letter ニュースレター Vol.5

主旨と御礼

一般財団法人 言語交流研究所 代表理事 鈴木堅史



2016年4月より5年間を目標に、東京大学・MIT (マサチューセッツ工科大学)・一般財団法人言語交流研究所の三者による「多言語の脳科学」共同研究は、ことばを見つけ生み出していく脳の働きに焦点をあて、人間の言語獲得の振る舞いをより明らかにしていこうと始まりました。脳は複数の言語をどのように処理するのか、また多言語体験者の脳は、新しい言語に出会った時にどう反応するのか、いくつかのテーマをたて、多言語獲得にかかわる脳のメカニズムの解明に取り組んで参りました。

その5年間の「多言語の脳科学」共同研究が、「外国語習得の脳科学的効用」に関する研究論文にまとめられ、イギリスの科学雑誌『Scientific Reports』(Nature誌の姉妹誌)に掲載され、2021年3月31日共同研究記者会見が行われました。

MITスザンヌ・フリン教授の仮説「言語獲得の累積増進モデル (The Cumulative Enhancement Model: CEM)」が東京大学大学院酒井邦嘉教授の科学的実験により、「多言語のほうが二言語より脳活動が活発」と世界で初めて実証されたことは、ヒッポファミリークラブの多言語活動のみならず、社会的にも大きな意味をもたらします。

この5年間「多言語の脳科学」共同研究に関心を寄せていただき、また同時に設立させていただいた共同研究基金にも、沢山のご寄付を賜りまして誠にありがとうございました。皆さまのご支援に心から御礼申し上げます。

マサチューセッツ工科大学 言語学・多言語獲得研究 教授 スザンヌ・フリン



ヒッポファミリークラブの仲間として、また、共同研究に携わった一人として、研究成果を大変嬉しく思います。今回の研究結果は、第2言語よりも第3言語の方が、より簡単に習得できること、そして、多言語の方が、更に簡単に習得できることを示しました。従来、行動実験のみから提唱していた「言語獲得の累積増進モデル」が脳科学的に実証されたのです。この発見は、「言語獲得の累積増進モデル」に脳科学によるゆるぎない裏付けを与え、ヒッポファミリークラブにとって「新しい時代」の幕開けとなります。

東京大学大学院 総合文化研究科 言語脳科学 教授 酒井邦嘉



共同研究により、多言語話者の方が脳の言語野はもちろん、大脳基底核・視床や視覚野までも有効に活用できているということを初めて明らかにしました。日本語を母語とする参加者に対してカザフ語を新たに習得させ、MRI装置と文法課題を用いて言語習得のプロセスを調べました。その結果、左脳の言語領域の活動が、多言語群で二言語群よりも定量的に高くなりました。これらの結果は、複数の言語の習得効果が累積することで、より深い獲得を可能にするというスザンヌ・フリン教授の仮説「言語獲得の累積増進モデル」を支持するものです。多言語の音声に触れながら自然に習得することの重要性が科学的に明らかになりました。

「多言語の脳科学」共同研究基金 第5期募金額

ヒッポファミリークラブメンバー、フェロウ、ご家族、国際交流グループフェロウ、イヤロン家族、地域合宿事務局、オープントラカレ参加メンバー、研究協力者ほか、沢山のご支援を賜りました。誠にありがとうございました。

この5年間の共同研究基金総額を「多言語の脳科学」共同研究に充当させていただきます。

募金額 2,070,598円

Gracias!

第1期募金 2,234,335円
第2期募金 1,003,235円
第3期募金 935,318円
第4期募金 647,363円
5年間募金総額 6,890,849円



「多言語の脳科学」
共同研究基金

一般財団法人言語交流研究所
ヒッポファミリークラブ

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-2-10 青山H&Aビル3F
TEL. 03-5467-7041(代) FAX. 03-5467-7040
フリーダイヤル 0120-557-761 <http://www.lexhippo.gr.jp>

世界的に新型コロナウイルスが蔓延し、ヒッポファミリークラブの日常活動、ワークショップ、講座などもオンラインで開催となりました。9月と11月にはオンラインで「秋のオープントラカレ*講座」が3コマ企画され、延べ1500名以上の参加がありました。

*トラカレ：Transnational College of LEX 略称

- 9月21日(月・祝) 秋のオープントラカレ講座
「マルチリンガルとバイリンガルの違いー脳研究の最新レポート」(ブレインシェアリング)
 酒井邦嘉先生 (東京大学大学院総合文化研究科教授/言語脳科学)
- 9月22日(火・祝) 秋のオープントラカレ講座と対談
「ことば、人間、科学者、科学」～大事なことを考えよう～ 中村桂子先生 (JT生命誌研究館名誉館長/生命誌)
 【特別対談】中村桂子先生×酒井邦嘉先生
「科学者が人間であること」「科学という考え方、科学者という仕事」～大事なことを語り合おう～
- 11月15日(日) 秋のオープントラカレ講座(キャンパスプラザ京都×オンライン)
「部分と全体」 山崎和夫先生 京都大学名誉教授/理論物理学

2021年春から、ヒッポファミリークラブ40周年を記念して、オープントラカレ全10講座開催、延べ5400名の皆さんが参加。各講師先生方の専門分野の講義と、全国ヒッポの多彩な地域司会チームのコラボが炸裂～多様な分野からの講義の重なりから「ことばと人間」が浮き上がってきました。



- 2021年3月20日(土・祝) 10:00～12:00
「他人事はどこにもないーいのちのつながりで考える」
 中村桂子先生 JT生命誌研究館名誉館長/生命誌
 38億年の生命の歴史を一つのつながりとして捉えなおす「生命誌」という新しい科学を創出し、「生きもの」の研究に取り組んでいます。30年以上にわたって研究協力者としてトラカレを応援。
- 2021年3月20日(土・祝) 14:00～16:00
「ミジンコ・音楽・人間のことば」 坂田明さん ミュージシャン/ジャズサクソ奏者、ミジンコ研究者
 ヒッポメンバー、研究協力者、理事として長年ヒッポを応援。「Summersion Camp 2020 HIPPO de 無人島探検」に参加、瀬戸内海をバックにサクソ演奏も。
- 2021年3月21日(日) 10:00～12:00
「混沌と暗号」 塚原祐輔さん ボールウェーブ株式会社取締役
 現在は評議員としてヒッポを応援。物理学、数学に精通し、長年トラカレ生の「アニキ」的存在です。
- 2021年3月21日(日) 14:00～16:00
「声から言葉へ」 岩田誠先生 東京女子医科大学名誉教授/神経内科学
 現在は理事としてヒッポを応援。神経内科医であり脳科学の第一人者。芸術にも造詣が深く、ヒッポのベベフィールドにも関心。

- 2021年4月17日(土) 10:00～12:00
「物理屋と生き物」 坂東昌子先生 愛知大学名誉教授、京都大学基礎物理研究所研究協力員/理論物理学
 10年ほど前にヒッポの理事だった故・丸山瑛一先生のご紹介でヒッポの研究協力者になり、今年度からは理事として活躍。
- 2021年4月17日(土) 14:00～16:00
「『グローバル化』とどう向き合うのか～『英語さえできれば大丈夫』の落とし穴～」
 木村護郎クリストフ先生 上智大学外国語学部ドイツ語学科教授/社会言語学
 上智大学、慶応義塾大学で「多言語コミュニケーション」の授業などをされており、慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)、上智大学にてヒッポとのコラボの多言語授業が実現。「節英」を提唱し、脱英語依存の教育に取り組む。

- 2021年4月29日(木・祝) 10:00～12:00
「量子と情報：量子の世界でのコミュニケーション」
 鈴木淳先生 電気通信大学大学院情報理工学系研究科准教授/原子・分子・量子エレクトロニクス
 埼玉・鈴木陽子フェロウのご子息。多言語環境で育った若手研究者。山崎和夫先生(ヒッポ研究協力者)のトラカレ講座で量子力学に関心を持ち、現在は量子力学を応用した量子情報理論研究に取り組む。
- 2021年4月29日(木・祝) 14:00～16:00
「食肉3.0～培養肉のすすめ」 竹内昌治先生 東京大学大学院情報理工学系研究科教授/バイオハイブリッドシステム
 山梨・竹内博子フェロウのご子息。中学時代にアメリカ青少年交流にも参加。機械、電気、情報、生物、化学、材料など、多様な分野の研究者が集まったユニークな研究室を主宰、そのテーマは「いろいろな分野をゴチャ混ぜにして、新しいものを創る! Think Hybrid!」

- 2021年5月8日(土) 10:00～12:00
「生物らしさの理解へ向けて～ゆらぎと進化について～」 古澤力先生 理化学研究所、東京大学理学系研究科教授/生物物理学
 東京・古澤不二子フェロウのご子息。2011年に文部科学大臣表彰、若手科学者賞を受賞。専門の「生物システム」の解明に向けて理論と実験の研究に取り組む。
- 2021年5月8日(土) 14:00～16:00
「COVID-19に伴う最近の『グローバル・コミュニケーション』課題解決代案～大変だけど楽しい、新たな気づき発見、学ぶ仕事生活人生視点から～」 長江敏男さん Pharma Business Consultant /岐阜薬科大学客員教授
 ヒッポの評議員。薬学専門で製薬会社で活躍された後、製薬に関する企業コンサルタントや講演など、広く活躍。テーマ「日本発の創薬を!」を掲げ、オープントラカレ講座初登場でヒッポコラボを楽しみに。

於：一般財団法人言語交流研究所 東京・渋谷

この5年間の「多言語の脳科学」共同研究成果がイギリスの科学誌「Scientific Reports」に掲載され、3者による共同研究記者会見が開かれました。アメリカ・ボストンからスザンヌ・フリン教授もオンラインで参加され、共同研究成果が世界に発信されました。



『外国語習得の脳科学的効用～多言語の方が二言語より脳活動が活発～』



- 1. 発表者
 酒井邦嘉 (東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 教授)
 梅島奎立 (東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 博士課程2年)
 鈴木堅史 (一般財団法人 言語交流研究所 代表理事)
 スザンヌ・フリン (マサチューセッツ工科大学 多言語獲得研究 言語学 教授) オンライン参加

- 2. 発表のポイント
 ◆英語とスペイン語を習得した日本語母語話者(多言語群)は、英語を習得した日本人(二言語群)と比較して、新たな言語の習得時の脳活動が活発になることを発見しました。
 ◆三言語以上の習得経験を持つ多言語群の方が、二言語群より新たな言語の獲得に有利であることが、脳活動から初めて実証されました。
 ◆日本の英語教育で特にリスニングに苦手意識を持つ人が多い中、多言語の音声に触れながら自然に習得することの重要性が明らかとなりました。

- 3. 発表概要
 この共同研究において、多言語話者の方が言語野はもちろん、大脳基底核・視床や視覚野までも有効に活用できているということを初めて明らかにしました。日本語を母語とする参加者に対してカザフ語を新たに習得させ、MRI装置と文法課題を用いて言語習得のプロセスを調べました。その結果、左脳の言語領野の活動が、多言語群で二言語群よりも定量的に高くなりました。これらの結果は、複数の言語の習得効果が累積することで、より深い獲得を可能にするという仮説「言語獲得の累積増進モデル」を支持します。この仮説は、共著者の一人であるスザンヌ・フリン教授がこれまで提唱してきたものです。日本の外国語教育で英語ばかりが取り上げられがちの中、多言語の音声に触れながら自然に習得することの重要性が科学的に明らかとなりました。この自然習得法は、今年40周年を迎える言語交流研究所・ヒッポファミリークラブが多言語活動を通して実践してきたものであり、今回初めて脳科学による裏付けが得られたこととなります。

- 4. 発表内容
 ① 研究の背景・先行研究における問題点：日本人の多くは学校において英語を学び、英会話だけでも相当な苦勞をした体験から、多言語を話す能力を特殊な能力だと思いがちです。ところがヨーロッパ諸国やアフリカの多民族国家などでは、多言語の環境が日常的であり、新たな言語を習得するのにそれほど大きな努力は必要ないように見えます。そのように多言語に適用できる言語習得のメカニズムは、これまで脳科学的に解明されていません。従来の研究では、第2言語習得や第3言語習得が行動実験で調べられていましたが、上記の「言語獲得の累積増進モデル」と対立する見解があり、いずれの説を支持する神経基盤も明らかにされていませんでした。
 ② 研究内容：実験では、14～27歳の参加者49人(東京大学学生・上智大学学生・ヒッポファミリークラブのメンバーなど)に対し、リスニングのスコア(各言語版のAvantテストによる)を用いて、多言語群(28人、内18人女性)と二言語群(21人、内10人女性)という2群に分けて、カザフ語の音声刺激を用いた文法習得課題を行いました。(中略)その結果、多言語群では第2言語の方が第3言語より習得期間が長いにもかかわらず、両者のリスニングのスコアに相関が見られ、さらに両者のスコアが高いほど、カザフ語の単語の聞き取り(単語条件)が速く習得できることが分かりました。これらの結果は、多言語間に共通したリスニング能力を示すものです。また、ブロックあたりの応答時間が最初と最後でどの程度減少したかを調べたところ、習得初期の単語条件と文法1条件で、多言語群の方が顕著な順応効果を示しました。この文法課題を行っているときの脳活動をfMRI(機能的磁気共鳴画像法)で測定したところ、言語野である左運動前野外側部と中/下前頭回の活動が両群で観察され、多言語群では文法1条件で活動が左脳に限定的で、母語と同様のパターンを示しました。さらに両群の直接比較では、多言語群において左下前頭回の活動が増加しました。また、行動の適応制御に関係する大脳基底核・視床に加えて、視覚を司る領域でも活動上昇が多言語群の方が二言語群よりも活発でした。さらに興味深いことに、二言語群では大脳基底核・視床の活動が文法2・文法3条件の最初でリセットされたのに対し、多言語群ではその活動が維持されました。また言語野では、多言語群の方が文法2の最初から文法3の最初まで活発な活動を維持されています。多言語群に選択的な活動は、音声刺激のみの提示時にもかかわらず視覚野(鳥距溝・舌状回)でも活発で、多言語群は視覚的イメージを活用できることを示唆します。

Avantテスト他、時間的な活動パターンが示す群間差等の実験結果図は発表論文詳細参照のこと。

- ③ 社会的意義・今後の予定：日本の義務教育では英語が必修科目となっていますが、自然な音声に触れるよりも、単語の記憶や文法の学習に頼る傾向が顕著です。さらに「国語と英語」という二項対立のため、外国語全般に対する苦手意識が助長されやすくなっています。しかし、二言語話者より三言語話者の方が新たな言語を柔軟に習得しやすい、という本研究の成果は、英語とそれ以外の言語を同時に習得することの相乗効果を明確に示しています。その可能性は言語の「自然習得」という考え方と合致しており、現在の語学教育に一石を投じるものです。そもそも語学教育では、「言語を教える」と

第5期共同研究基金は2020年4月1日～2021年3月31日ですが、今回ヒップファミリークラブ40周年記念オー
プントラカレ講座（オンライン）開催時にも共同研究基金へのお願いしましたので、5月8日までのご寄付を第5
期共同研究基金募金とさせていただきます。また2020年9月21日、22日のオンライン講座開催時、参加皆さまの
参加費の一部を、共同研究基金にご寄付させていただきました。皆さまのご理解をよろしくお願い申し上げます。

第5期共同研究基金に、皆さまのご支援のほど、誠にありがとうございました。

一般財団法人 言語交流研究所 代表理事 鈴木堅史

飯塚祐子	500	森岡利行	500	青木笑三子	500
東島直美	500	田島ふき子	500	赤坂和	500
山下しのぶ	500	吉井千佳子	500	川上裕子	500
前田清美	500	鈴木千晶	500	田島ふき子	500
横田恭彦	500	佐藤まなつ	500	山本千恵	500
高松民子	500	奥山真由美	500	吉井千佳子	500
大塚夏子	500	竹内邦良	5,000	奥山真由美	500
山崎曜	500	山田創平	500	森敦子	500
吉田文	500	庄司美栄子	500	大塚夏子	500
清水れい子	1,000	橋ヶ迫修	500	竹内邦良	5,000
鈴置真弓	500	川口福美	500	伊藤さやか	500
横田恭彦	500	難波田綾	500	神戸朱里	500
東山美由紀	500	三宅高子	500	西村有湖	500
江尻ゆりか	500	小林陽子	1,000	近田望	500
佐々木晶子	500	山本直子	1,000	山下しのぶ	500
遠西朋子	500	白石真紀	500	中里春枝	500
久米直子	500	辻康子	1,000	松長大介	500
大田雅子	500	井上康史	1,000	高松民子	1,000
加藤結巳	500	矢口弘子	500	佐藤まなつ	500
三宅高子	500	久米直子	500	渡辺妙子	1,000
佐藤智子	1,000	山崎直子	1,000	小野寺科奈絵	500
石川佳依子	500	清水れい子	1,000	杉浦亜由美	500
鈴木理恵	500	竹内あかね	500	森祐子	500
桑原真由美	1,000	國分徳子	500	伊藤しのぶ	500
西村保美	500	吉田文	500	小林真弓	500
小野寺科奈絵	500	徳永和子	500	飯島早苗	1,000
矢島有記	500	田島麗	1,000	辻康子	1,000
矢萩里会子	500	船津百合子	500	柳田まち子	500
三宅恵司	500	小野寺科奈絵	500	青島弓子	500
光宗優子	500	5月		小林祥子	500
山田三代子	500	8日 オープントラカレ講座		竹内あかね	500
川口裕美	1,000	星名和代	500	中村純子	500
戸井ゆかり	500	塩入明子	500	中村佳子	500
赤坂和紀	500	福田彩子	500	井上康史	1,000
山崎直子	1,000	釜崎孝子	10,000	鈴木理恵	500
國分徳子	500	池淵敦子	500	豆田和子	10,000
伊藤しのぶ	500	山賀小百合	500	東山光枝	500
井上康史	1,000	黒川博美	1,000	前田和子	500
29日 オープントラカレ講座		平岡昭子	500	三宅高子	500
星名和代	500	小松江利子	500	瀬々桂子	1,000
竹内邦良	5,000	古澤不二子	500	竹村真理子	500
塩入明子	500	矢定夕有子	500	川口福美	500
石田佳子	500	小林ゆかり	500	井上綾乃	500
平岡昭子	500	渡辺裕予	500	國分徳子	500
古澤不二子	500	住川真紀	500	永井信子	500
渡辺裕予	500	田中絹子	500	田島麗	1,000
田中絹子	500	関根寿美子	500	光宗優子	500
山本恵子	500	大島優子	500	清水れい子	1,000
鈴木ゆみ子	500	鈴木ゆみ子	500	向井朋子	500
井上晶子	500	大塚夏子	500	徳永和子	500
久野満美子	500	姫田順二	500	第5期 合計募金額	2,070,598
小谷富士子	500	福山美紀	500		
関根寿美子	1,000	豊田和子	500		
東島直美	500	保田真知子	500		
田中美由紀	1,000	関根寿美子	500		
横山由美子	1,000	堀江妙子	1,000		
池谷奈々子	500	西村寛子	500		
大谷智子	500	佐久間祐治	1,000		
中村まゆみ	500	四柳久美子	500		
四柳久美子	500	坂井幸子	500		
東山光枝	500	古石暁子	500		
溝越貴章	500	二村みどり	500		
赤坂和	500	豊田理恵	500		
川上裕子	500	小林真由美	500		

申し訳ありませんが敬称(様)を
略させていただきます。

2020年4月	(円)		
1日 今岡妙子	2,861	江尻ゆりか	500
5月		岡田幸恵	500
18日 小川益子	10,000	小野美与子	500
7月		三島奈保	500
23日 関川正	10,000	函師晴佳	500
26日 久米	3,000	北村弓子	500
8月		渡辺裕予	500
4日 平岡昭子	10,000	四柳久美子	500
9月		浦川貴美	500
21日 オープントラカレ講座		下川友香理	500
金田貴恵子	500	望月ゆう貴	500
近田望	500	須網千尋	500
佐々木真希	500	入澤尚子	500
並木由香	500	高橋淑子	500
羽賀淑子	500	田村祐子	500
内藤和子	500	守屋仁子	500
松尾敬子	500	藤咲麻里	500
伊藤理恵子	500	富松久美江	500
横田ゆかり	500	森雅典	500
鈴木福真	500	吉井千佳子	500
小山妙子	500	佐藤まなつ	500
鈴木陽子	500	石田佳子	500
黒川博美	500	折田伸昭	500
馬淵実恵	500	黒川佳奈子	500
山賀小百合	500	西村保美	500
宮崎美香子	500	赤坂和紀	500
篠塚百合	500	竹島慈子	500
中山美穂	500	重松宣子	500
松田あすか	500	リヴィーン貴子	500
永井信子	500	岩田里絵子	500
秋田記三代	500	和仁紀子	500
岩佐優子	500	松本直子	500
瀬尾美樹	500	山本恵子	500
遠西朋子	500	石神満寿美	500
高橋智華	500	山下しのぶ	500
谷口真美	500	伊藤のり子	500
藤田章子	500	田中明子	500
青木真理子	500	大竹順子	500
真下知子	500	佐藤朋子	500
村田ともみ	500	出口久乃	500
北村祐子	500	勢川さおり	500
市川啓子	500	関根寿美子	500
杉山優子	500	大島優子	500
後藤万里子	500	船津百合子	500
小野寺科奈絵	500	佐藤理衣	500
大島京子	500	箕作初香	500
福山美紀	500	姫田順二	500
田中真理子	500	岡田梨恵子	500
新村延子	500	鈴木ゆみ子	500
桑田直樹	500	松原充子	500
木村智子	500	豊島雅子	500
二村みどり	500	瀬々桂子	500
		河野ひとみ	500
		藤本律子	500
		平岡弦也	500
		清山資夫	500
		佐々木晶子	500
		白木丞	500
		鈴木理恵	500
		岩城真由美	500
		光宗優子	500
		奥山真由美	500
		山崎直子	500
		清山資夫	500
		加藤恵梨	500
		西野尚子	500
		細島恵子	500
		小林祥子	500
		根立彰子	500
		三石美和	500
		中村奈津子	500
		大塚夏子	500
		高橋みさ	500
		戸井田幸栄	500
		富山万美子	500
		富樫学	500
		難波田綾	500
		新井和美	500
		吉和里子	500
		久野満美子	500
		田中絹子	1,000
		折田玲子	1,000
		福村八重	1,000
		桑原日出子	500
		村田弘美	1,000
		大賀典子	1,000
		國分徳子	1,000
		海堀美子	1,000
		竹添祐子	1,000
		清水れい子	1,000
		杉浦明子	1,000
		塩入明子	1,000
		小林真弓	1,000
		東島直美	1,000
		大平道子	1,000
		嶋よう子	1,000
		兼山桃子	1,000
		広瀬朋子	1,000
		市川環	1,000
		平林薫	1,000
		鈴木睦子	1,000
		小林ゆかり	1,000
		舩田安代	1,000
		竹内あかね	1,000
		鳴海カオリ	1,000
		串尾佳寿美	1,000



